

2番 原田 靖 議員

1 町内会の持続について

- (1) 高齢化や役員の担い手不足など町内会運営が困難になりつつある現状をどのように受け止めているか。
- ① なんのために町内会はあるのか。町内会は必要か。町内会がないと市民活動にどのような影響があるのか。原点に振り返ってみて改めて町内会の役割と現状をどのように見ているか。
- ② 行政にとって町内会や地域住民の協力を抜きにして「協働のまちづくり」は成り立たない。町内会の加入は世帯を単位とした加入率低下の問題もあるが、それ以上に1世帯員の減少が地域活動を衰退させ「協働のまちづくり」へ大きく影響していくと考えられるがどうか。
- (2) 町内会の実態を探り、持続可能な新しい町内会活動の仕組みづくりを早急に検討するべきと考えるがどうか。
- ① 町内会を例えば「厳しい状況の集落」、「やる気がある集落」、「地域資源など条件に恵まれた集落」などにタイプ分けし、タイプごとに健康診断し、改善すべき点を明確にし、町内会の将来ビジョンを住民と共有し、健全な町内会運営を目指す仕組みづくりを構築する考えはないか。
- ② まずは市役所職員、教職員、消防職員、地域団体など地域の人材と総務省の集落支援員制度を活用し、担い手として積極的に参加を促していく考えはないか。
- ③ 社会構造が大きく変わっている現在、一律的な町内会活動では立ちいかななくなっているのも事実である。従来の地縁型コミュニティから、同じテーマを持つ人たちのつながりや福祉、環境や趣味などのテーマに応じて集まる人たちがつくるコミュニティづくりを構築できないか。